

## 目次

■ <b>2024年のロシア港湾の貨物量</b> .....	1
■ 『ロシアNIS調査月報』2025年4月号のご案内 .....	8
■ <b>統計速報</b> .....	9
2025年1月の日本の対ロシア・NIS諸国輸出入通関実績／9	
2025年1月の日ロ貿易／10	
■ <b>キーパーソン</b> .....	13
ベラルーシ新首相にミンスク州知事を任命／13	
カザフスタン 新設の原子力庁長官にサトカリエフ氏／13	
■ <b>トピックス</b> .....	14
伊藤忠商事、ウズベクでのウラン鉱山開発事業に出資／14	
日ロさけ・ます交渉妥結／14	
米ロ首脳電話会談 ウクライナ停戦で合意できず／15	

**2024年のロシア港湾の貨物量****解説**

ロシア港湾の取扱貨物量の2024年の実績を入手したので、本号では、早速このデータを図表にまとめてお届けする。

昨年1年間のロシア港湾の取扱貨物量は、8億8,629万tと、前年と比べ2.3%減少した。このうち、ドライカーゴは4億4,109万tと、同1.9%の減少となった。一方、液体カーゴは4億4,520万tと、同2.6%の減少となった。

2000年には1億8,230万tだった取扱貨物量は、コロナ渦で一時減少したものの、ウクライナへの軍事侵攻で西側諸国からの制裁を受ける中でも、中国やインド、トルコなど「グローバル・サウス」と呼ばれる新興国や途上国への輸出拡大により増加を続けた。しかし、2024年の取扱貨物量は、軍事侵攻開始後初めて前年を下回った。鉱石や肥料など、取扱量が大きく増加した品目もあったが、欧米諸国による制裁の強化や輸送インフラの制約、国際価格の低迷などの要因が重なり、過去30年間で最大となる、2,000万t以上の減少を記録した。

どんな貨物を運んでいるのか。ドライカーゴでは、石炭が前年より9.8%減って1億8,812万t、鉄鋼が10.8%減って1,902万t、非鉄金属が15.9%減って273万t、木材が16.9%減って191万t、梱包貨物が23.1%減って603万t、冷凍貨物が10.3%減って273万tなどとなっている。一方、鉱石が前年より26.3%増えて1,232万t、コンテナが10.8%増えて5,550万t、肥料が15.7%増えて4,249万t、